

高校3年生・既卒生のための

受講の葉

お手元に2024募集要項をご用意ください

実技Ⅰ・Ⅱ

実技ⅠとⅡの違い

■ 実技Ⅰ [週5回/月～金]

実技試験の難易度が高い東京藝術大学や関東5美大(※)は、確かな実技力を持った生徒を求めています。受験に対応する実技力を身に付けるためには、月曜～金曜の週5日間通われることを推奨いたします。質、量ともに多くの課題に取り組むことで確かな実技力と対応力を身に付けてください。

※関東5美大とは、武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、女子美術大学、日本大学芸術学部の総称

■ 実技Ⅱ [週1～5回/曜日回数自由] ※両国ICは月～金の中で選択

筑波大学を筆頭に芸術系学部、建築学部、教育学部、専門学校等では、実技力と学力の比重が異なるため、志望校に合わせた対策を講じる必要があります。志望校に合わせ、曜日、回数を自由に選び、効率良く実技対策を行きましょう。志望校にふさわしい来校回数は講師と相談の上で決めてください。

実技の授業について

■ 授業中について

高校の授業のように1時間ごとにチャイムが鳴ることはありません。昼間部なら6時間、夜間部は3時間(両国は2時間)の間、授業がずっと続きます。そのため、休憩は各自が自由に取ります。立ち歩いても怒られることはありません。友人がどのように描いているか見てもいいですし、眼が疲れた時は遠くの景色を眺めるために教室の外に出て構いません。自分の絵から一旦目を離し、再び見たときに修正点に気付くことは沢山あります。そのため、立ち上がって怒られるどころか自分の作品を「離れて見る」ことを講師から勧められることは良くあります。初めての方は長い時間集中して描き続けることがあまりないでしょうから、まずそれに体を順応させることから始めましょう。

■ 開始時期が遅くなった場合は…

少しでも美大進学に興味があればまずは相談に来てください。無料体験や相談は随時行っております。現在の実技力、志望校の難易度、試験日までの日数などを踏まえ講師が最適な授業をご提案いたします。無料体験に来てみるだけでも、やるべきことが見つかるはずです。1人で悩まず講師のアドバイスと共に合格の最短コースを探しましょう。

■ カリキュラム

描写力や表現力を上げるために様々な工夫が取り入れられています。基礎、実践、応用と順に進むこともあれば、いきなり入試問題に取り組むこともあります。実は出題される問題は多くの場合で大体の予想が付きます。英語や数学などは問題が前もって分かれば答えを用意できますが、絵の世界はそうはいきません。石膏デッサンが出題されると分かっているのに、誰もが上手に描ける訳ではありません。トーリンでは年間を通して皆の個性や得意を伸ばし、高得点に結びつけるベストなカリキュラムを用意しています。

■ 講評会とは

講評会とは制作期間の最後に作品について講師が説明を加えながらコメントしていくものです。トーリンでは2種類の講評を行っています。多くの作品を並べ競い合う一斉講評と、個人の課題や志望校に合わせて一人ひとりにアドバイスを行う個別講評です。一斉講評の場合でもただ優劣をつけるのではなく、丁寧に一人ひとりと向き合いすべての生徒にアドバイスを行うことがトーリンの特徴ですので、安心して参加してください。

■ 学科の重要性

美術系大学では、学科試験の得点も可否に大きく影響します。

学科と実技の配点の割合は2:3~1:1が多く、学科試験では7割以上の得点が優位になる条件と言えます。特に多摩美術大学の小論文は評価の観点が特殊で、解答者のそれまでの経験をもとに独自の論を展開していく、いわばエッセイ的な内容が求められています。その為、一般的な小論文の指導を受けただけでは対策が難しく、美大で求められる小論文の傾向に沿った対策が必要です。

トーリンの学科授業は動画教材を利用したオンデマンド形式となっています。内容も美大入試に特化したカリキュラムとなっているので、日々実技の対策で忙しい中でも隙間時間などを利用して効率よく学科対策を進めることができます。

イベントや講習会について

■ 実技コンクールについて

年間の授業内や講習会中に実技のコンクールを行っています。コンクールは3校舎合同で行い、本番の試験同様に作品に点数を付け順位を決めます。普段の授業より多くの人数、多くの作品の中で自分の順位や作品の見え方を知る貴重な機会です。

■ 夏期講習について

現役生（夜間部生）にとっては入試と同様に1日6時間の制作ができる機会となります。加えて、各大学の試験問題に近い課題を体験することで大きな成長が期待できます。また、昼間部生にとっては自身の表現を広げていく場になります。夜間部、昼間部共に予定が合わなければ日割りでの受講が可能です。日程は担当講師とカリキュラムの区切りなど含めて相談していくと課題がスムーズに進められます。

■ 冬期講習（直前講習）について

冬期講習会とは12月に行われる実技講習会のことです。内部生・外部生共に申込ができます。直前講習会とは1月以降の外部生向けの授業を指します。内部生は3学期の授業がこれに該当します。私大では入試2か月前となる大切な時期です。直前講習から始める生徒さんも毎年おられます。それぞれの入試傾向に合わせて、生徒とこまめに打ち合わせをしながら対策を進めていきます。

■ 3学期について

授業では入試と同じ形式、試験時間での課題が毎日出題されます。受験1~2か月前となる3学期は、それぞれの入試傾向に合わせて、生徒とこまめに打ち合わせをしながら試験本番へと向かいます。町田校・川崎校においては3学期から週5コマ以上の受講者へは土曜日のアトリエを開放します。土曜日のアトリエ開放を有意義に使い作品の完成度を高めてください。

入試について

■ 併願校の考え方

美大受験は実技試験の内容が大学ごとに異なります。そのため多くの併願をすることは、入試対策の種類も増えることとなります。3校程度に併願を絞り込み、一つひとつの実技対策に時間をかけることが、合格に向けた手堅い受験対策と言えます。

■ デザイン、油絵、日本画の併願の考え方の違い

東京藝術大学のデザイン科の入試は実技が3種（デッサン、色彩、立体）に加えて、学科4教科の合計7科目であることに対して、難関私大は実技2種（デッサン、色彩）と学科2教科の合計4科目になります。実技の立体に関しては私大で課している大学が殆どなく、藝大独自の対策となります。対して私大の学力試験2教科（英・国）は、藝大に対して配点比率が高くなる傾向が見られ、こちらは私大独自の対策が必要です。この様な違いから、藝大と難関私大の併願する生徒は少ない傾向にあります。

油絵科の対策としては入試傾向がはっきりと分かっている私大に対して藝大では使用できる画材やキャンバスサイズや木炭紙のサイズなど、課題内容や支持体のサイズが年度によってかなり異なります。デッサンと油絵を描くことにおいては違いは無いため、藝大と私立美大を併願する生徒は多いですが、藝大においては対応力を付けていくことが重要です。

日本画においてはデッサンと着色が入試に課されるので、藝大・私大共に実技で扱う画材は同じですが、藝大の場合は特に高い技術力が必要になることに加え、入試の傾向や表現の仕方に違いがあります。藝大に向けた対策をしてきた場合に滑り止めとして私立を併願することはありますが、私立美大が第一志望の場合は対策を絞った方が受験への対応はし易いと思います。

また、全科共通して学科が評価にどのように含まれているのか明確ではないため、実技力を高めて挑む必要があります。藝大を狙うのであれば高校1年生から早めの対策を行うことを勧めております。

■ 滑り止めの考え方

美大受験でも滑り止めを設けることは可能です。ファイン系（油絵・日本画）の場合は実技難易度の低い他大学を選び受験することになります。デザイン科の場合は他大学でなく、同大学内の実技難易度や倍率の低い類似学科を選ぶことがあります。その際に実技試験の内容が似通った科や大学を受験すると合格の可能性が高くなります。担当講師とより良い組み合わせを相談して対策をしっかり行った上で受験に臨んでください。

■ 浪人を視野にいれるか

難関私立美大への高い現役合格率を維持してきたことがトリーン美術予備校の強みです。受験生は試験本番まで目覚ましい成長をします。まずは第一志望校合格を目標に、合格水準へ到達できるよう努力していきましょう。それぞれの成長の推移を踏まえたうえで、本人の希望と各ご家庭の教育方針に耳を傾けながら現役合格の可能性を探していきます。

当然、大学ごとに受験の難易度が変わります。その難易度に比例してリスクは高くなりますので受験校によっては浪人を覚悟しておいた方が良いでしょう。

例えば、浪人覚悟で学費の安い東京藝大を狙う方、絶対に浪人できないから確実に入れる美大を選ぶ方、卒業までの学費を考えて専門学校を選ぶ方といった様に学費という観点でも学校の選び方は様々です。その上で皆さんに合った「それぞれのTOP校」を提案させていただきます。

実技Ⅲ

総合型・学校推薦選抜科とは

■ 実技Ⅲ [週1～5回/曜日回数自由] ※両国ICは月～金の中で選択

授業の曜日、回数を自由に選択し、総合型・学校推薦型選抜に特化した対策を行います。授業内では個別カリキュラムに沿って受験に必要な作品制作を行います。また「総合型・学校推薦型選抜 対策講座」と併用することで、志望理由書や面接、作品ファイル制作等、作品制作以外に必要な準備も全て行うことができます。「総合型・学校推薦型選抜 対策講座」は毎年多くの受験生が授業と並行して受講する人気講座です。

■ 基本的な受験方法

実技試験による判断ではなく、大学側に自らの活動や表現力をアピールすることで入学資格を得る受験方式です。日頃の課題制作や自主制作を1冊にまとめた作品ファイルの提出や大学側から前もって出された事前課題の提出などが求められます。また、将来の展望や大学で学びたいことなどが質問される面接も課されており総合的な判断で合格が決まります。大学によっては実技試験を課している場合があります。

■ 年間の流れ

5月から8月にかけて行われるオープンキャンパスに参加をして志望校の調査から始めましょう。多くの場合は募集要項が公開される夏ごろから必要な準備を進めていきます。夏から秋にかけては作品制作と提出書類の準備で忙しくなります。夏に願書提出、秋に試験というイメージをしておくのと良いでしょう。合格後は一般選抜の合格者と実技力の差がつかないようにリメディアル学習に取り組みます。

授業について

■ 週回数について

作品ファイルに入れる作品は高い完成度が求められるため制作時間には余裕を持っておきましょう。それに加え志望理由書、面接、作品ファイル制作など作品制作以外にも準備するものが多岐にわたります。

これらの準備をバランスよく進めていくためにはスケジュール管理が重要です。総合型・学校推薦型選抜科を週3コマ程度、総合型・学校推薦型対策講座を週2コマ程度の割合で受講するのがお勧めです。

■ 夏期講習について

総合型・学校推薦型選抜科にとって夏期講習期間は入試直前と言えます。学校が長期休みとなるこの間に集中して、作品制作や志望理由書、面接の対策をしっかりと行いましょう。夏の過ごし方が合否に直結しています。

受験について

■ 総合型・学校推薦型選抜へ向けて

総合型・学校推薦型選抜の難易度を一般選抜と比較した場合、易化する場合も難化する場合があります。志望校によって受験方式の戦略が変わりますので講師と受験方式の戦略を立てて臨んでください。また、多摩美術大学、武蔵野美術大学、国公立大学を受ける場合は科や専攻により倍率に大きな違いがありますので、難易度を知るためにも講師に相談しながら対策を進める方が良いでしょう。

■ 合格した場合 リメディアル授業

入学後の学びに必要な実技力の強化を行う為に、合格後から入学までの期間に行う授業がリメディアル授業です。総合型選抜や学校推薦型選抜で合格された生徒さんに対して、独自の自宅課題を課す大学も多くあります。早期合格のアドバンテージを生かして、大学の授業が始まる前に、知識と技術の万全の準備を整えましょう。

■ 不合格だった場合 一般選抜への切り替え

総合型・学校推薦型選抜科は2学期終了（11月末）までの授業期間です。希望に添わず、総合型・学校推薦型選抜で不合格となった場合は、一般選抜科へ転科し一般選抜対策を行うことができます。ただし総合型・学校推薦型選抜と一般選抜では、ほとんどの大学で異なる形式の実技試験が課せられます。不合格の場合は合格発表後の残りわずかな期間で、一般選抜の実技対策を行わなければいけない点に難しさがあります。

トールン美術予備校